

午後 試験

問 1

問 1 では、アーンドバリューマネジメント (EVM) の導入について出題した。チームの状況からチーム名を答える設問や、対策によって EVM 指標がどう変わるかを問う設問など、与えられた EVM 指標の意味を読み取る設問についての正答率は高かった。

設問 2 は、(1)で、“管理密度が細くなる”という解答が目立った。管理の品質がどう上がったかを問う設問であり、管理密度の観点ではなく、成果物の実態と突き合わせた管理が可能となるという点に着目する必要があることがあった。(2)では、EVM の出来高測定においては、品質を確保するために、完了基準も併せて決めておく必要があることを理解しておいてほしい。

設問 3(2)については、CV や CPI について述べている解答が見られた。納期遅延の判断の根拠を問うていたのであるから、SV 又は SPI の観点で解答する必要があることがあった。EVM を適用するための基本であるだけに、プロジェクトマネージャは是非理解しておいてほしい。

問 2

問 2 では、プロジェクト計画の策定、改定などについて出題した。全体として正答率は高かった。

設問 2 は、プロジェクトの計画を考えるに当たり、要員、プログラムなどのリソースを最大限、有効に活用する観点に基づき、2 次開発が 1 次開発のプログラムに修正を加える改造の多いものであるという点を踏まえた解答を期待した。

先行する 1 次開発の要員の有効活用の観点からは、工数の空きをなくすという点からの解答は多かったが、経験を生かすという点にまで言及した解答は少なかった。1 次開発の結合テストの終了で要員を絞り込める点と、1 次開発の経験者のノウハウが必要である点の 2 面があることを理解してほしい。

また、プログラム品質の確保の観点からは、結合テストを終了した品質のプログラムを修正に使用できる解答を期待したが、このような解答は少なかった。

実務では、今回の要員とプログラムのように、多面的な視点からアプローチすることが大切である。

問 3

問 3 では、当初予定していたプロジェクトのスコープが変更された場合の、スケジュール、要員計画の見直しについて出題した。全体として、正答率は高かったが、設問 2(1)のように、経験に基づく深い分析が必要な設問については正答率が低かった。管理図を使用する目的、利用方法についてはおおむね正しく理解されていたようであり、実務での活用を期待したい。

設問 1(1)の“理由”は、“複数の作業を独立に並行して行える”のように、製造・単体テスト工程の特性を解答として期待していたが、“人事情報システムの経験（スキル）を必要としない”のように、体制面について答えた解答が見られた。期間短縮を行うという本来の目的をとらえて、各工程の特性を的確に比較・評価することが大切であった。

設問 2(1)は、“レビュー参加者による資料の事前確認”、“資料の事前配布”などの、レビューの運営方法の工夫について問うたが、“自己チェックの徹底”のように、問題文中の言葉をそのまま引用する解答が見られた。設問の趣旨を理解し、プロジェクトマネージャとして一歩踏み込んで、プロジェクトの運営方法をどうすればよいかを、具体的に解答することを期待していた。

問 4

問 4 では、オープン系システム開発プロジェクトにおけるプロジェクト運営に関して、課題の早期把握・早期対応について出題した。課題への早期対応については、おおむね正しく理解されているようであった。

設問 1(1)の“項目”は、性能目標が達成できなかった場合に、P 社と K 社で責任問題が発生することを認識して、請負契約の内容を調整する解答を期待したが、“性能目標未達成の場合の K 社のペナルティ”のように責任範囲を決めた後の内容についての解答も多かった。性能目標の達成には、発注者側と受注者側の双方が責任を分担する状況であることを理解する必要があることがあった。

設問 4(1)は、内部設計工程に入りシステム基盤の見直しが必要となる追加開発が発生した状況で、プロジェクトの制約条件である“納期遵守”のために必要な行動についての解答を期待したが、“要員を追加する”や“追加仕様の予算を確認する”など、追加開発を行うという選択をした解答もあった。追加開発への対応には、制約条件と追加開発の優先度を比較して判断する必要があることがあった。